

Nara National Museum

奈良国立博物館 だより

第 **54** 号

平成17年 7・8・9月



◎楊柳観音菩薩立像(大安寺)〔特別展「古密教」にて、7/26-8/21に展示〕

特別展

古密教 -日本密教の胎動-

7月26日(火)～9月4日(日)
東・西新館

遣唐使と唐の美術

9月20日(火)～10月10日(月・祝)
西新館

親と子のギャラリー

ほとけさまのお花 -蓮-

7月26日(火)～9月4日(日) 西新館

特別陳列

宿院仏師 -戦国時代の奈良仏師-

5月28日(土)～7月10日(日) 東新館

模造にみる正倉院宝物

9月20日(火)～10月10日(月・祝) 西新館

平常展

仏教美術の名品

本館
西新館(7月10日まで)

中国古代青銅器

本館

特別展

空海はここから始まった

古密教

— 日本密教の胎動 —

平成17年7月26日(火)～9月4日(日)

◆主催 奈良国立博物館

◆後援 毎日新聞社、毎日放送

◆協力 日本航空、奈良交通、日本通運、
乃村工藝社、奈良テレビ放送

平安時代のはじめ、唐より帰国した空海によって日本に密教が伝えられたことはよく知られています。しかし、すでに奈良時代にも数多くの密教経典が伝えられており、種々の密教修法が行われていました。唐に渡る前の若き空海も密教経典を読み、また山林修行や虚空蔵求聞持法などの密教的な修行を実践しています。もし、空海が奈良

は曼荼羅や明王像はまだありません。しかし、奈良時代の洗練された古典美に呪術性が加わった造形は、霊験さえ感じさせる迫力に満ちています。また、古密教の修法では古式三鈷杵や鏡と呼ばれる法具が用いられましたが、その簡潔で研ぎ澄まされた私たちは、空海以降の法具とは異った魅力を持っています。

特別展「古密教

を志すこともなく、きっと平安時代以降の仏教は今日私たちが知るものとは違う姿になっていたことでしょう。

— 日本密教の胎動 — は、
これまで見過ごされがち
であった奈良時代の
密教に焦点を当て、そこで

古密教では十一面観音や千手観音などの多面多臂の観音像や、後の明王の萌芽を感じさせる忿怒相の菩薩像、また悔過法要の本尊として薬師如来像や吉祥天像が造られました。空海以降の密教と違い、古密教に

生み出された優れた美の世界をご覧ください。
この展覧会を通して、もう一つの密教世界を発見していただけるものと思います。



◎菩薩半跏像（法華宗醍醐寺）



◎虚空蔵菩薩坐像（願安寺）



◎十一面観音菩薩立像（与楽寺：広瀬）

遣唐使と唐の美術

平成17年9月20日(火)～

10月10日(月・祝) 会期中は無休

主催／奈良国立博物館、日中友好協会、朝日新聞社



井真成墓誌 (西北大学文博学院)

昨年、中国の西安市で、日本の遣唐使の墓誌が新たに発見され、大きな話題を集めました。八世紀前半に中国へ渡り、当時の唐王朝の都・長安で唐王朝につかえ、将来を嘱望されながら現地で亡くなった井真成の墓誌です。この井真成という人物は史書に記載がなく、いったい誰を指しているのか、その出自は葛井氏な

のか井上氏なのか、様々な議論を呼んでいます。まだはつきりしたことはわかっていません。しかし、古代日本に多大な功績を残した遣唐使の墓誌が、中国で発見されたのは初めてであり、その活動を知る上でも画期的なことでした。また、「日本」という国号が使用された最古級の資料でもあります。

今回の展覧会では、この井真成の墓誌を核として、遣唐使がその目で実見したであろう唐文化の精華といえる品々を集め、また日本に伝来する遣唐使関連の遺品とともに展示いたします。遣唐使が目指し、古代日本が範とした唐文化の素晴らしさを改めてご覧いただきながら、日中文化交流の原点に迫ります。



三彩貼花文鳳首瓶 (白鶴美術館)

特別陳列

模造にみる正倉院宝物

特別展「遣唐使と唐の美術」の開催に合わせ、唐代の美術工芸を反映した正倉院の楽器をはじめとする工芸品(模造)を展示し、当時の東アジアの文化および交流の様相を紹介します。



木画紫檀双六局 (模造、当館)

親と子のギャラリー

ほとけさまのお花 — 蓮 —

会期◆平成17年7月26日(火)～9月4日(日)
(特別展「古密教」と同時開催)

蓮は仏教を象徴する植物として表されてきました。蓮と仏教ははるか昔、古代インドで出会ったと考えられます。それ以来、蓮と仏教は時空を越えて強く結びついてきました。仏教美術には蓮の美術といってよいほど蓮のデザインが溢れており、すみずみまで蓮によって飾られています。この展覧会では、蓮のかたちと意味を、「浄土のお花」、「ほとけさまを飾る」、「仏法の象徴」の三つのテーマに分けて、日本の仏教美術の中に探検していきます。

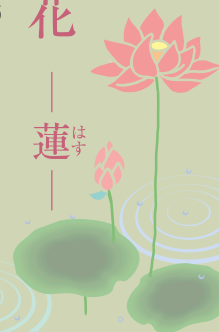
いろいろと工夫された蓮のかたちや蓮にちなんだデザインを通じて、人間のイメージの豊かさや創造力を感じとってみてください。そして仏教美術の不思議なおもしろさを楽しんでもらえたらとてもうれしいです。蓮の美しい季節に開かれるこの展覧会、「ほとけさまのお花」は展示室でも満開です。今年の夏は博物館に蓮を見にお出かけください。



●阿弥陀三尊及び童子図のうち阿弥陀像 (法華寺)



●蓮唐草時絵経箱 (当館)



展 示 評

〈外からみる奈良博〉

『曙光の時代』を見て

大阪大学名誉教授 都出 比呂志



観覧風景

昨年、「日本の考古―曙光の時代―」に招待されて、ドイツ・マンハイムの展示会を見学した。よくぞこれだけの遺物を集めたものと驚かされた。シュタインハウス氏をはじめスタッフの方々に敬意を表わす。日本の先史・古代のこれ程充実した展覧会がヨーロッパで開かれたのは初めてである。ヨーロッパ人はいにしえの日本文化への興味をかきたてられるらしく、ドイツの今回の展示会場は8万人も集めて大成功だった。展示図録のレイアウトや撮影技術は非常にすぐれておりページを開くだけでも楽しいものとなっていた。

展示された資料が日本に里帰りし、奈良国立博物館で装いを新たに展示会が開かれたので4月末奈良を訪れた。奈良国立博物館での展示はドイツの展示より空間にゆとりがあつて見やすかった。青森県三内丸山遺跡は縄文時代前期から中期にかけて継続した日本最大の縄文集落遺跡であるが、各種の遺構が計画的に配置されている様が、展示された写真からも分かり、非常に迫力あるものだった。しかし、どんなに発達した文化でも、縄文時代である。「縄文都市」という言葉は、一人歩きして「都市」についての間違つたイメージを見学者に与えるかもしれない。都市論に関する論争がある中、とくにそう思う。

佐賀県吉野ヶ里遺跡は、集落を囲む環濠集落と物見櫓、掘立柱建物、首長の存在を示す墳丘墓などから邪馬台国九州説の一つの根拠となっている。これに対し、西日本を代表する大遺跡奈良県唐古・鍵遺跡も、大型掘立柱建物や環濠集落、鋳型などから、庄内式からはじまる奈良県纏向遺跡の存在と共に、これまた邪馬台国大和説の一つの根拠となっている。これだけの迫力ある資料がそろっているの、国民の関心の深い邪馬台国論争についての端緒にでも触れると、見学者にとってはイメージが膨らんだ事だろう。

群馬県綿貫観音山古墳の埴輪と大阪府長原高廻り古墳の埴輪が並んで展示されていたが、この二つの古墳の埴輪は色、土質も明らか

に違っており人物埴輪と形象埴輪という内容にもはつきりした差があり興味深いものとなっていた。この差は古墳の違いによるものというより東日本と西日本の埴輪の違いを典型的に表わしているものであるから、その説明があると、一般の人の理解が更に深まったのではないかなと思う。

日本の文化は太古の昔から現代まで、朝鮮半島の文化と中国文化に深い影響を受けて発達してきた。大陸の文化なしには日本の文化を語る事は出来ない程強い結びつきがある。奈良国立博物館の展示品の中にも韓国の慶州市から出た磨製石斧などがある。古墳時代、四世紀後半、日本の支配者が武力を背景として日本統一へと歩み出すのも、朝鮮半島における軍事的緊張の高まりを受けたからである。滑石で作った祭器など、四世紀後半から五世紀の倭系の遺物が、韓国南部の遺跡で発見されている。一方、伽耶産の陶質土器や鉄鋌などが日本列島で出土している。奈良国立博物館のパンフレットでも、古墳時代、大陸や半島からは前にもまして文化が取り入れられ、物だけでなく最新技術を身につけた人々が日本に渡来したことが説明されている。日本の歴史や文化を語る時、事実即して近隣諸国の相互関係をこのように語って行く事はとても大切と思う。最近、中国や韓国と日本の間がぎくしゃくしているが、近隣諸国との交流なしにはわが国の発展も有り得ない事を発信するのも、考古展の大切な役割と思う。

日本の石器時代から古代までの典型的なこのように優れた遺物を一つの会場で見られる事は今後とも少ないであろう。ドイツで開かれた考古展の作品を返却する前に、このような形で私達に提示してくれた事に感謝している。黒曜石が割られて行く過程、縄文時代の火焔型土器や土偶、精巧な石器や骨器、弥生時代の巨大な銅鐸、銅鍬の刺さった人骨、古墳時代の馬の鎧や埴輪。どの資料も迫力満点で、見学者は充分満足したのではないだろうか。



蓮華形柄香炉 (龍光院)



造東大寺司請經牒 (当館)



十一面観音菩薩立像 (中国・河南博物院)

特別展

古密教 ― 日本密教の胎動 ―

7月26日～9月4日 東西新館

I 古密教伝来

●十一面観音菩薩立像(当館)・十一面観音菩薩像頭部(大原美術館)・十一面観音菩薩立像(中国・河南博物院)・十一面観音菩薩立像(東京国立博物館)・十一面観音菩薩立像(神福寺)・十一面観音菩薩立像(与楽寺・広瀬)

II 変化観音・救いのかたち

●十一面観音菩薩立像(東京国立博物館)・十一面観音菩薩立像(多田寺)・十一面観音菩薩立像(唐招提寺)・十一面観音菩薩立像(円満寺)・十一面観音菩薩立像(当館)・十一面観音菩薩立像(東京国立博物館)・十一面観音菩薩立像(一乗寺)・十一面観音菩薩立像(伝衆宝王菩薩立像)・伝獅子吼菩薩立像以上、唐招提寺)・不空絹索観音菩薩立像、馬頭観音菩薩立像、楊柳観音菩薩立像(以上、大安寺)・唐大和上東征伝(大東急記念文庫、西大寺資料流記帳(西大寺))

III 陀羅尼の教主

●菩薩半跏像(宝菩提院願徳寺)・虚空蔵菩薩坐像(額安寺)・虚空蔵菩薩坐像(能満寺)・文殊菩薩坐像(葉師寺)・虚空蔵菩薩坐像(個人)・虚空蔵菩薩坐像(矢田寺北僧坊)・虚空蔵菩薩像(東京国立博物館)・虚空蔵菩薩像(藤田美術館)・虚空蔵菩薩像(細見美術財団)・求聞持根本尊図像(醍醐寺)・如意輪観音坐像断片、蔵王権現立像心木・断片、如意輪観音菩薩坐像、虚空蔵求聞持法、如意輪陀羅尼経(以上、石山寺)

諸観音図像(当館)・十巻抄巻第六(醍醐寺)・信貴山縁起絵巻(尼君巻)(朝護孫子寺)

IV 古密教の経典

●金剛場陀羅尼経(文化庁)・仏頂尊勝陀羅尼経(正智院)・仏頂尊勝陀羅尼経(石山寺)・千手千眼陀羅尼経(京都国立博物館)・不空絹索神變真言経巻第一(三寶院)・不空絹索神呪心経・大毘盧遮那成佛神變加持経巻第一(以上、西大寺)・如意輪陀羅尼経(松尾寺)・造東大寺司請經牒(当館)・道慈律師像(額安寺)

V 悔過―古密教の儀礼

●伝葉師如来立像、吉祥天立像(以上、唐招提寺)・月光菩薩立像、仏目天立像(以上、勝常寺)・七仏薬師如来像(松虫寺)・吉祥天像(葉師寺)・吉祥天立像、金光明最勝王経、釈迦三尊像(以上、西大寺)・天形形立像(桐江神社)・毘沙門天立像、吉祥天立像、法螺、百万塔及び十万節塔(以上、法隆寺)・銅鏡、銅三鈷鏡、三宝絵詞下巻以上、東京国立博物館)・金光明最勝王経、銅三鈷片(以上、当館)・三宝絵残巻(名古屋博物館)・舟形光背(二月堂光背)・同拓本、銅三鈷鏡(堂司鈴)・銅三鈷鏡(呪師鈴)・銅香水杓、東大寺要録、二月堂縁起(以上、東大寺)・銅三鈷鏡(円福寺)・銅三鈷鏡(個人、仁王経法曼茶羅(ニューヨーク公立図書館、呪符木簡(檀原市教育委員会))

VI 山の修行者

●日本霊異記上巻興福寺)・日本霊異記中・下巻(来迎院)・役行者坐像(個人)・泰澄及び二行者坐像(大谷寺)・十一面観音菩薩立像世尊寺)・奈良県大峯山頂遺跡出土品金製如来坐像・金製菩薩坐像・銅瑞花鴛鴦文八稜鏡・銅三鈷片断片、銅錫杖断片

須恵器・土師器・三彩片・和同開珎・富寿神宝・隆平永宝(大峯山寺)・奈良県弥山山頂出土品(金銅三鈷片)(当館)・奈良県丸山遺跡出土品(軒丸瓦・軒平瓦)・奈良県天地位院跡出土品(葡萄酒草文短頸壺・軒丸瓦)(以上、東大寺)・二荒山碑文(神護寺)・日光男体山頂出土法具・銅三鈷片・銅三鈷鏡・銅柄香炉・銅塔鏡形合子・銅錫杖頭・鉄錫杖頭(日光二荒山神社)・鉄錫杖(輪王寺)・銅錫杖(法隆寺)

VII 古密教から空海へ

●勤操像(普門院)・勤操像・五大尊像・性霊集以上、醍醐寺)・弘法大師二十五箇条遺告、真言八祖像(以上、当館)・高野大師行状図巻第一(白鶴美術館)・三國弘法伝通縁起下巻(葉師寺)・空海請来目録(宝蔵寺)・大日如来坐像(金剛峯寺)・両界曼茶羅(伝真言院曼茶羅)・教王護国寺)・両界曼茶羅(浄土寺)・金剛界大壇具(西部大壇具のうち)・室生寺

親と子のギャラリー

ほとけさまのお花 ― 蓮 ―

7月26日～9月4日 西新館

「浄土のお花」●阿弥陀三尊及び童子図(法華寺)・当麻曼茶羅厨子扉(當麻寺)・蓮華・東大寺)・華曼(靈山寺)・種子華曼、当麻曼茶羅(以上、当館)・蓮華化生文説相箱(個人)・刺繍阿弥陀三尊来迎図(中宮寺)

「ほとけさまを飾る」

●蓮池図(法隆寺)・両界曼茶羅・刺繍釈迦如来説法図、俱利伽龍文時給経箱(復原模造)(8/16)・光背(以上、当館)・花瓶

(観心寺)・赤地蓮池水禽文倭錦打敷(般若寺)・俱利伽龍文時給経箱(8/15)(當麻寺奥院、阿弥陀如来立像(個人)・一字蓮台法華経(龍興寺)・法華経(長谷寺)

「仏法の象徴」

平等院鳳凰堂阿弥陀如来坐像・心月輪・蓮台付(模造)・蓮唐草時給経箱・蓮台形舍利容器(以上、当館)・華籠(万徳寺)・華籠(性海寺)・蓮弁飾密教法具(唐招提寺)・梵鐘(海住山寺)・能作生塔(長福寺)・蓮池文時給経箱(8/16)(金剛寺)・蓮華形香炉(8/15)(個人)・宝相華文線刻蓮華形磬(赤松院)・蓮華形柄香炉(龍光院)・密教法具、鉄宝塔納置五瓶、火焰宝珠形舍利容器(以上、西大寺)

特別展

遣唐使と唐の美術

9月20日～10月10日 西新館

井真成墓誌(伝西安市東郊出土)(西北大学文博学院)・鴻雁文匱・鴛鴦唐草文耳杯・花文蓋碗・龜文桃形盤・合子・唐草文合子・翼鹿鳳凰文合子・宝相華文六花形合子・孔雀文箱・三足小壺・蓮華座壺・蓮弁文提梁壺・折柄鏤斗・龍・菱文錠・白玉獅子文帶飾・開元通宝(金貨)・開元通宝(銀貨)・和同開珎(銀貨)(以上、西安市何家村出土)・金銀平脱四鸞銜綬文鏡(西安市長樂坡出土)・三彩鉢(陝西省乾泉泰公主墓出土)(以上、陝西歷史博物館)・禽獸草花文三足小壺・鴛鴦草花文三足小壺(西安市西北国棉五廠65号唐墓出土)・頭飾(咸陽市賀若氏墓出土)・螺鈿花鳥文八花鏡(西安理工大学李倕墓出土)



鴟吻尊(個人)



●木造十一面観音立像(新薬師寺)



翼鹿鳳凰文合子(中国・陝西歴史博物館)

■白磁長頸瓶(長安県草鎮鎮墓出土)、
 □三彩双魚瓶(西安市南里王村唐墓出土)、三彩高脚蓮座付壺(西安市熱電廠二號唐墓出土)、□加彩馬(西安市陝棉十廠唐墓出土)(以上、陝西省考古研究所、加彩騎馬狩獵胡人・加彩騎馬奏樂女子(西安市豁口唐墓出土)、三彩女子・三彩文官・三彩武官(西安市南郊唐墓出土)(以上、西安市文物保護考古所)、
 □錫杖・□長頸瓶(慶山寺塔基地宮出土)(臨潼區博物館)、□三彩鏡(華義市黃冶窯址出土)、□黑陶鉢・□白磁合子(登封市法王三號塔地宮出土)(以上、河南省文物考古研究所)、
 ■雙魚文四花形杯・荷葉形托(洛陽市唐齊國太夫人墓出土)、
 ■三彩貼花文灯(洛陽市吉利區出土)、
 ■三彩有蓋壺(洛陽市閔林出土)、
 ■三彩印花飛鳥文三足盤(洛陽市上窑出土)、
 ■三彩香炉(洛陽市李樓出土)、
 ■三彩鳥形杯、
 □三彩合子、
 □三彩豆(洛陽市龍門香山寺出土)、
 ■加彩樂舞女子(孟津唐唐岑氏墓出土)、
 ■三彩馬(洛陽市閔林唐墓出土)、
 ■藍釉四耳壺・
 ■藍釉鉢・
 ■褐釉腹・
 ■褐釉盤口瓶(以上、洛陽市偃師恭陵出土)(以上、洛陽博物館)、
 □白磁双耳壺(三門峽市橋頭市場工地出土)(三門峽博物館)

◎遺教經(石山寺)、◎龍池鴛鴦双魚文碗、◎花鳥文八曲長杯、◎花鳥文六花形高脚杯、◎花鳥獸文高脚杯、◎狩獵文六花形高脚杯、三彩貼花文鳳首瓶(以上、白鶴美術館)、◎三彩印花宝相華文三足盤、◎三彩花弁文盤、加彩舞女(以上、永青文庫)、三彩鴨形鉢(靜嘉堂文庫美術館)、白磁磁耳瓶(出光美術館)、黑釉弁口水注(MOA美術館)、白磁弁口水注(五島美術館)、海獸葡萄鏡(村上開明堂、遣唐使船(模型)(兵庫県立歴史博物館)、

紺玉帶(復元模造)(宮内庁正倉院事務所)、美努岡万墓誌(奈良県生駒市萩原出土)、◎白磁鳳首瓶、三彩女子、三彩馬、三彩牛車・馭者、吉備大臣入唐絵詞(模本)、金銀平脱花鳥文八花鏡(復元模造)、螺鈿紫檀阮咸(模造)(以上、東京国立博物館)
 ■Ⅰ級文物 □Ⅱ級文物 ◎Ⅲ重要文化財

特別陳列

模造にみる正倉院宝物

9月20日～10月10日 西新館

紅牙撥鏤撥、檜和琴、洞簫、伎楽人形(呉女)、木面紫檀及六局、黒柿両面厨子、紫檀金銀絵書几、火舎、金銀杖横刀、紅牙撥鏤尺、紺牙撥鏤尺、紅牙撥鏤基子・紺牙撥鏤基子(以上、すべて模造、当館)ほか

平常展

仏教美術の名品 彫刻

7月～9月 本館

奈良時代の仏像

第1室

◎脱活乾漆・木造梵天立像、◎脱活乾漆・木造伝救脱菩薩立像(以上、秋篠寺)、
 ◎銅造法華説相図(長谷寺)、◎木造菩薩立像(金竜寺)、◎銅造誕生釈迦仏立像及び灌仏盤(東大寺)、脱活乾漆力士立像、銅造誕生釈迦仏立像、銅造誕生釈迦仏立像(以上、当館)、◎銅造誕生釈迦仏立像(悟真寺)、◎銅造誕生釈迦仏立像(正眼寺)、銅造誕生釈迦仏立像(個人)、◎脱活乾漆十大弟子立像のうち舍利弗・目犍連、◎脱活乾漆八部衆立像のうち緊那羅(以上、興福寺)、◎木造西大門勅額(東大寺)、◎木心乾漆光背(聖林寺)、◎木心乾漆伝義淵僧正坐像

(岡寺)、◎木心乾漆阿閼如来坐像(西大寺)

平安・鎌倉時代の仏像

第2室

◎木造薬師如来立像(元興寺)、◎木造千手観音立像(園城寺)、◎木造十一面観音立像(勝林寺)、◎木造十一面観音立像(地福寺)、◎木造阿弥陀如来立像、◎木造重源上人坐像(以上、浄土寺)、木造閻魔王坐像、木造泰山府君坐像(以上、東大寺)

法隆寺伝法堂の乾漆像

第3室

◎脱活乾漆阿弥陀三尊像(中の間)、◎木心乾漆阿弥陀三尊像(東の間)(以上、法隆寺)

新薬師寺伝来の十一面観音像

第3室

◎木造十一面観音立像(新薬師寺)、◎木造十一面観音立像(当館)

ガンダーラ・中国・朝鮮半島の彫刻

第4・6室

ガンダーラ 石造菩薩立像、石造仏伝図浮彫(以上、当館)、ストウツコ如来頭部、ストウツコ如来坐像、ストウツコ菩薩立像、ストウツコアトラス像、石造貴婦人群像(以上、個人)

中国 銅造仏三尊飾板、銅造菩薩坐像、銅造力士立像、◎木造諸尊仏龕(以上、個人)、銅造二仏並坐像、方形独尊坐像、方形阿弥陀三尊像、方形独尊像、小型独尊像(以上、当館)、多宝塔像、石造如来頭部・雲岡、石造如来頭部(天竜山)、石造仏五尊像、石造仏立像、石造仏浄土碑像、石造仏坐像、◎石造三尊仏龕(以上、個人)、◎石造三尊仏龕(当館)

朝鮮半島 銅造如来立像(光明寺)、銅造如来立像(当館)

◎散手、◎胡飲酒、◎胡德樂(2面)(以上、手向山八幡宮)、◎貴徳、◎陵王(以上、東大寺、崑崙八仙(当館)

◎銅造観音菩薩立像(親心寺)、銅造観音菩薩立像、銅造観音菩薩立像、銅造菩薩立像(以上、当館)、◎銅造菩薩立像(法起寺)、◎銅造菩薩半跏像(神野寺)、◎銅造菩薩半跏像(東大寺)、◎銅造観音菩薩立像(金剛寺)

◎平安時代後期の仏像

◎木造十一面観音立像(松尾寺)、木造釈迦如来坐像(法隆寺)、木造菩薩半跏像、木造不動明王立像(以上、個人)、◎木造増長天立像(称名寺)、◎木造増長天立像(法明寺)、◎木造不動明王坐像(園城寺)、木造大日如来坐像(元興寺町)、木造阿弥陀如来坐像、木造阿弥陀如来坐像、木造広目天立像(以上、当館)、木造阿弥陀如来坐像(金剛寺)

◎鎌倉時代の仏像

◎木造弥勒菩薩立像(林小路町)、◎木造地藏菩薩立像(東大寺)、◎木造十一面観音坐像(現光寺)、◎木造不動明王坐像(正寿院)

◎神仏習合の彫像

◎銅造蔵王権現立像(2軀)(大峰山寺)、木造蔵王権現立像(当館)、◎木造八幡三神坐像(薬師寺)、木造男神坐像(観音寺)、木造童子形坐像、木造大將軍神坐像(以上、当館)、◎木造大將軍神坐像(大將軍八神社)

◎平安・鎌倉時代の金銅仏

◎木造十一面観音立像(当館)、◎木造弥勒仏坐像(東大寺)、◎木造維摩居士坐像(石山寺)、◎木造十一面観音立像(海住山寺)

◎舞楽面

◎小金銅仏

◎平安時代後期の仏像

◎木造十一面観音立像(当館)、◎木造弥勒仏坐像(東大寺)、◎木造維摩居士坐像(石山寺)、◎木造十一面観音立像(海住山寺)

第7室

第7室

第7室

第7室

第12室

第12室

第12室

第12室

●銅造阿弥陀三尊像〔善光寺式〕（善光寺）、銅造蔵王権現立像（個人）、銅造釈迦如来坐像、銅造軍荼利明王立像（以上、園城寺）、銅造不動明王立像、銅造大威徳明王坐像（以上、当館）
●木造十二神将立像（東大寺）
第13室
＜神将形の彫像＞

特別出陳
国宝 薬師如来立像（唐招提寺金堂）
本館 第1室

平常展
中国古代青銅器（坂本コレクション）
本館 第14室・第15室

爵・尊鼎など中国古代の商（殷）～漢代に製作された青銅器の逸品を展示しています。

●Ⅱ国宝 ●Ⅱ重要文化財
以上すべての展示において内容を一部変更する場合があります。

パネル展示
国宝 十一面観音像（当館蔵）
地下回廊
光学的調査の成果
修復文化財

●夏季講座のご案内●

テーマ ◆古 密 教◆
8月23日（火）～25日（木）〔3日間〕

8月23日（火）
「古密教の世界―仏教史上の位置―」 種智院大学学長 頼富本宏
「飛鳥奈良時代の社会と古密教」 東海大学教授 速水 侑
「東大寺二月堂光背と古密教の観音信仰」 当館企画室長 稲本泰生
「悔過と仏像」 東北大学大学院教授 長岡龍作

8月24日（水）
「考古学から見た奈良時代の山岳信仰」 滋賀県立大学教授 菅谷文則
「奈良時代の不空絹索観音像」 青山学院大学教授 浅井和春
「木津川流域における薬師悔過伝播の様相」 元嵯峨美術短期大学教授 中野玄三
「吉祥悔過の儀礼と造像―薬師寺吉祥天画像をめぐる―」 当館研究員 谷口耕生

8月25日（木）
特別展「古密教」概説
当館工芸考古室長 内藤 栄、当館研究員 谷口耕生
特別展「古密教」自由見学

（会 場）奈良女子大学 講堂（近鉄奈良駅から徒歩約5分）。
（ただし25日は、奈良国立博物館 講堂・展示室）
（会 費）3,000円（テキスト代、見学科等を含む）。
（定 員）380名。
＊応募多数の場合は、抽選により決定します。
＊当館の友の会カードをお持ちの方を、優先的に受け付けます。
＊受付の可否を、7月末までに通知します。
（応募締め切り）7月20日（水）必着。
（応募方法）[往復はがき]による、郵送に限ります。
＊「夏季講座参加希望」と書き、[氏名・住所・郵便番号・電話番号・性別・年齢・友の会カード番号]を明記して下さい。
＊返信用はがきに、宛名を記入して下さい。
＊はがき1枚につき、申込者1名として下さい。
（申込先）〒630-8213 奈良市登大路町50 奈良国立博物館 教育部
（問い合わせ先）教育部 電話 0742-22-4463
ファックス 0742-22-7221

●列品解説●

親と子のギャラリー 「ほとけさまのお花―蓮―」
7月30日（土） 午後1時半より（1時に開場・整理券配布）、当館講堂
清水 健（工芸考古室研究員）

●公開講座●

特別展「古密教―日本密教の胎動―」
8月13日（土） 「古密教と純密の法具」 内藤 栄（当館工芸考古室長）
8月20日（土） 「空海にいたる虚空蔵法と造像」 紺野敏文（慶応義塾大学名誉教授）
8月27日（土） 「山岳信仰遺宝と古密教」 関根俊一（帝塚山大学教授）
9月 3日（土） 「『奈良密教』と奈良仏教者の諸相」 根本誠二（筑波大学教授）

特別展「遣唐使と唐の美術」
10月 1日（土） 「唐文化の精華―金銀器―」（仮題） 山中 理（白鶴美術館学芸課長）
10月 8日（土） 「唐文化との出会い―遣唐使と留学生―」 東野治之（奈良大学教授）
＊午後1時30分より（1時に開場・整理券配布）
＊当館講堂にて ＊定員200名（先着順） ＊聴講無料

●ギャラリー・トーク●

7月13日（水） 「中国古代青銅器」（本館第14・15室）
岩戸晶子（工芸考古室研究員）
8月10日（水） 「聖林寺蔵木心乾漆光背」（本館 第1室）
清水 健（工芸考古室研究員）
9月14日（水） 「金銅仏」（本館 第1室）
岩田茂樹（美術室長）
＊午後2時より ＊入館者は聴講自由

●奈良国立博物館賛助会員（2005年6月10日現在）
◆特別賛助会員 読売新聞大阪本社事業局 様
◆賛助会員（個人） ◆賛助会員（団体）
石坂登三子 ジャメンツ 様 奈良国立博物館 結の会 様
稲田和子 様 日本通運株式会社
ジャメンツ マイケル 様 関西美術品支店 様
畑中利久 様 株式会社 日経サービス 様
山本充範 様
植野光悟 様
＊賛助会員に関するお問い合わせは、
奈良国立博物館 渉外課 賛助会員担当まで。 0742-22-7771（代）

●展覧会日程●

	7 月	8 月	9 月
本 館	平常展（彫刻）・（中国古代青銅器）		
東 新 館	特別陳列 宿院仏師（～7/10）	特別展 古密教―日本密教の胎動―（7/26～9/4）	
西 新 館	平常展〔仏教美術の名品〕（～7/10）	親と子のギャラリー ほとけさまのお花―蓮―（7/26～9/4）	
			特別展 遣唐使と唐の美術（9/20～10/10） 特別陳列 機織にみる正倉院宝物（9/20～10/10）

展示品の 見どころ

きちじょうてん ぞう

吉祥天像

国宝 奈良・薬師寺

麻布著色

縦53.0 横31.7 (cm)

奈良時代(8世紀)

吉祥天は、古代インドの美と豊饒の神ラクシュミーが仏教に取り込まれ信仰されるようになった天女。その姿を描いた日本最古の作例である薬師寺吉祥天像は、ふくやかな顔立ち、微妙なグラデーションと透明感をもつ着衣の彩色など、豊麗な美しさを現在に伝える天平の名画としてほまれ高い。こうした見目麗しい姿は唐代美人画の影響を受けたものと考えられており、正倉院宝物の鳥毛立女図屏風とも共通する部分が多い。開いた胸元に淡墨の弧線を重ねて乳房のふくらみをあらわすのも両作品に共通する表現であり、豊かな女性像を強調しているのだろう。平安時代初めに編纂された『日本霊異記』には、吉祥天像に恋慕したという修行僧の話が記載されており、奈良時代の人々が薬師寺像を礼拝する際に懷いたであろう感情の一端がうかがえて興味深い。

さて、この天平美人を思わせる優美な画像が、吉祥悔過という密教的な法会の本尊として描かれたということは、意外に思われるかもしれない。悔過とは本尊となるほけに対して一年の罪過を懺悔し、新しい年の天下太平、五穀豊穡を祈願する法会

のこと。本尊に対して陀羅尼という呪文を唱え、護摩を焚き、鏡をはじめとする法具を用いるなど、密教的要素の強い儀礼だった。弘法大師空海が平安時代初めに体系化された密教を伝える以前、奈良時代にはすでにこうした古密教の尊像、經典、儀礼などが伝わっており、薬師如来や十一面観音などを本尊とする悔過が盛んに行われていた。中でも吉祥天を本尊とする吉祥悔過は、『金光明最勝王經』の経説に基づき、正月に七日七夜にわたって宮中の大極殿や諸国の国分寺で行われた国家的規模の法会であった。

薬師寺においても宝亀2年(771)ないし同3年に吉祥悔過が始められたといい、本画像はその本尊として描かれた可能性が高い。像高が40センチ弱と小さく、右手を胸前で伏せるという特殊な印相をとる点は、いずれも『陀羅尼集經』という奈良時代に重視された密教部の經典に基づいたと考えられる。まさに古密教の本尊画像として相応しい姿といえるだろう。



(当館研究員 谷口耕生)

※特別展「古密教—日本密教の胎動—」は7/26～9/4に開催

参加者募集中です!

親子の文化財教室「室町時代の歴史と美術」

学校では教えてくれないことを、楽しく学びませんか。

[第3回] 7月 9日(土)「吉野をめぐる人々」 野尻 忠

[第4回] 8月 6日(土)「南都絵所 一奈良の絵画工房一」 谷口耕生

[第5回] 9月10日(土)「唐物趣味」 清水 健

[第6回] 10月 8日(土)「大乗院跡・元興寺」

(現地見学、当館講堂集合) 吉澤 悟・岩戸晶子

[第7回] 11月12日(土)「水墨画と大和絵」 中島 博

[第8回] 12月10日(土)「金閣と銀閣」(現地見学、集合場所未定) 内藤 栄

(会場) 当館講堂および展示室、または見学地。

(時間) 午前10時～12時。

* 教室終了後、当日当館で開催中の特別展・平常展などを自由に観覧できます。

(対象) 小学校5・6年生と中学生、および保護者

(児童・生徒のみでも参加出来ますが、大人のみの参加はできません)。

(費用) 参加は無料です。ただし現地見学の時は、観覧料など実費を負担して頂きます。

(申し込み方法) 郵便またはファックスで、下記の事項を明記して、当館の教室へお申し込み下さい。

* 参加希望の回(何回でも結構です)

* 氏名・学校名・学年・参加保護者氏名・郵便番号・住所・電話番号・ファックス番号

開館予定(7月～9月)

■開館時間 9時30分～17時(ただし毎週金曜日および8月13・14・15日(土・日・月)は19時まで) ※いずれも入館は閉館の30分前まで

■休館日 月曜日(ただし7月18日(祝)、8月15日、9月19日(祝)、9月26日は開館し、7月19日(火)は休館)

■観覧料金

特別展 古密教—日本密教の胎動—

	大人	大学・高校生	中学・小学生
当日	1,000円	700円	400円
前売・団体	900円	600円	300円

* 特別展観覧料金が平常展もご覧いただけます。

* 団体は責任者が引率する20名以上。

平常展・特別陳列・親子のギャラリー

	大人	大学・高校生	中学生以下
一般	420円	130円	無料
団体	210円	70円	

* 団体は責任者が引率する20名以上。

* 敬老の日(9月19日)は無料でご覧いただけます。



(交通案内) 近鉄奈良駅から徒歩15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅からバスで「氷室神社・国立博物館」下車すぐ

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒(90円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館の情報サービス室にお申し込みください。



奈良国立博物館
Nara National Museum